

平成28年度 宮崎県立都城農業高等学校 学校評価

段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
------	--------	-----------	------------	----------

本校の使命
 創立100年の伝統と誇りを受け継ぎ、校訓を基調とした教育を実践し、宮崎県における農業教育のリーディングスクールとして県民に信頼される学校づくりを推進する。
 《本校の使命》
 (1) 時代の変化に適切に対応するため、柔軟な発想を持ち、豊かな創造性を発揮して、明日の本県の農業及び関連産業を支え、発展させる人材を育成する。
 (2) 基礎・基本を重視した確かな学力と勤労観や職業観を持った人材を育成する。
 (3) 命を基調とした農・食・環境・福祉等の基礎・基本の学びを核とし、自ら考え行動し、自分に課せられた問題や課題を解決できる人材を育成する。
 (4) 都城盆地の地域産業や人財（たから）を積極的に活用し、将来、地域を担い、地域で活躍できる人材を育成する。

本校の目標（学校経営ビジョン 本校が目指す学校像）
 (1) 農業経営者育成高等学校としての使命、農業関連産業で活躍できる人材を育成する使命を自覚した農業教育を実践する学校
 (2) 生徒が意欲的に学び、将来の夢や進路を実現できる学校 (3) 命を基調とした農業教育の実践により、思いやりや優しさ、気配りの心を育む学校
 (4) 地域に根ざし、地域に開かれ、地域とともに歩む信頼される学校 (5) 生徒全員が明るく元気に登校できる、いじめのない安全で安心な学校
 (6) 生徒・職員が災害、家畜防疫対策を常に意識・行動できる安全で安心な学校

ビジョン実現のための重点目標
 (1) 進路決定100% (2) 持続可能な学力向上のための日々課題の充実、グローバル化社会に対応する英語教育の充実 (3) 学校創立百周年記念行事の成功
 (4) デュアルシステム（学びながら働く、働きながら学ぶ）を実践し、学校・地域・行政が積極的に連携し農業担い手及び理解者を育成する。 (5) 各種協議会や地域と連携した農業女子の育成
 (6) 防災教育の充実（地震、火事、救急救命）※自分の命は自分で守る教育 (7) 携帯電話やスマートフォンから子供たちを守るための情報教育の実践
 (8) 部活動・農業クラブ活動の九州大会・全国大会出場 (9) 主権者教育の充実 (10) 自ら考え、動く生徒会活動の積極的推進

関係校務分掌	今年度の重点目標	学期	重点目標達成のための各学期の取組	内部評価		外部評価	
				評 定	各学期の反省（課題となるところ）	評 定	説 明
教務部	自宅学習の習慣化を図り、成績不振による原級留置を無くす。	1学期	各授業担当者による期末テスト前の成績不振者指導を徹底する。	3	○日々課題に対する取り組みが生徒個人で、差が見られた。 ○成績不振者指導は徹底しておこなうことができたが、成績が不振であることに対する危機意識が欠如している生徒が見られた。 ○緊急な場合を除き、急な日程の変更が何回かあった。 ○例年より早目に年間行事計画の作成に取りかかる。	4. 0	○学年末で欠点保持者が1名出たのは大変かもしれないが、先生方の頑張りがあって1名で済んだと思いたい。 ○部活動に参加している生徒にとって自宅学習の時間を確保することは大変である。これらの生徒に対する指導を積極的に行ってほしい。 ○自分の目標を定めるために、「これから自分はこんな風に努力し、頑張り、将来はこうありたい」と自分が思っていることをきちんと伝えて実行できる生徒の育成を望む。 ○各学期の取組ですばらしい結果が出ている。 ○生徒たちが意識を持って学習に取り組めたと思う。 ○個人差はあるが、遅刻に対する意識を高めてほしい。
		2学期	引き続き、中間テストにおける成績不振者指導を徹底する。	4	○例年同様、1学期末テストに比べ2学期中間テストにおける成績不振者が増大する傾向が見られた。夏季休業中も含めて、継続して学習することの大事さを全校集会等ので呼びかけていきたい。また、期末テストに向けての成績不振者指導をより徹底していきたい。 ○教科ごとや個人でアクティブラーニングについて研修はおこなわれているが、全体での職員研修が実施出来なかった。		
		3学期	学年末テストに向けて、在校生全員が進級、卒業出来るように、複数科目欠点のある生徒については徹底して指導していくことはもちろん、普段の授業が大事であることを認識させていきたい。	4	○教務部主催（ICT、アクティブラーニング等）の職員研修が実施出来なかった。 ○HPの更新があまり出来ていなかった。		

関係校務分掌	今年度の重点目標	学期	重点目標達成のための各学期の取組	内部評価		外部評価	
				評 定	各学期の反省（課題となるところ）	評 定	説 明
生徒指導部	携帯電話・スマートフォンに起因するいじめ防止	1 学期	携帯電話・スマートフォンの正しい使用を指導する。	3	○昨年度より自転車事故が増加しているため、自転車の整列状態や施錠状況の改善を強化している。 ○イエローカードの効果的使用により常時指導を行い問題行動を未然に防止する。	3. 6	○携帯電話は必需品なので、正しい使い方を教えることの方が大切だと思う。 ○イエローカードは1枚目からペナルティがあつて良い。 ○部活動は成績（結果）の良否に係わらず、社会人として基本（原則）を体系できていくと考える。 ○携帯を学校外で使うことを指導の対象外とするのは“頭隠して・・・”にならないか。持たせるならば、しっかりと教育・指導を行ってほしい。 ○生徒・PTA・学校の評価（要望）を適切に把握することが必要である。 ○先生方の頑張りに反して、意志が伝わらないのが残念である。 ○世の中の変化により、先生方も激務の中、苦勞が伺える。 ○先生方は頑張っているのに生徒たちには伝わっていないようだ。 ○スマートフォンについては、家庭内での指導も強く心がけてほしい。 ○心のゆるみで同じ生徒が問題を起こすことが多いと思うので、少しは自覚してほしい。
		2 学期	学校内外の行事等における問題行動を未然に防止するため、事前指導を十分に行う。	3	○1年生を対象に携帯電話・スマートフォンの使用について総合的な学習の時間で講習会を行ったが、SNSを不正に使った問題行動が発生した。 ○問題行動が多発した。昨年度の2学期が10件に対し、今年度は延べ19件（9月28日～11月24日）である。 ○自転車事故が昨年と比べて増加傾向にある。		
		3 学期	・携帯電話・スマートフォンの正しい使用について各学年や各学科と連携して生徒に周知徹底する。 ・問題行動を起こした生徒に対する効果的な事後指導の在り方を検討し、実施する。 ・充実した生徒会や委員会活動の取組を行う。	3	○問題行動を起こし、特別指導に入る意思確認や指導を拒否する生徒の対応に苦慮した。 ○部活動1年生全員入部について、活動していない生徒の調査を行ったが、3学期では効果的な指導が行えなかった。来年度は調査、指導を1学期末に実施するようにしたい。		
進路指導部	①進路決定100% ②面接・小論文指導の徹底	1 学期	①進路ガイダンス、企業訪問、校外模試等の取組を実施し、進路目標の設定をさせる。 ②面接指導は、進路指導部を中心に、各担任、各学科、各教科の先生方からの指導をさらに徹底させる。また、小論文指導は、国語科の協力を得ながら、徹底させる。	4	○3年学年会からも要望があつた件が、「LHR計画が本校ではない。」「統一行事が多くてクラスで指導する時間がない。」といった意見があつた。3年担任が進路指導等に取り組める時間を少しでも確保できるよう検討していけたらと思う。御協力をお願いします。 ○進路指導部主催の行事に先生方の参加をお願いしたい。特に外部講師の講演やガイダンス等は研修になると思います。	4. 4	○進路が100%決まるのはすばらしいこと。 ○3年後の離職率が低いこともすばらしい。 ○生徒が進路を選ぶ視点が見えるとわかりやすい。 ○生徒は入学当時は意識がない中で、進路指導をへながら選んでいくのでしょから、その経験が大事である。 ○高学年になるに伴い、入学時の考え方が発生しているのではないか。 ○せっかく社会人になつても、自分の才能に合わずに辞める生徒をどのように最後まで指導できるかが、本校卒業生に対する“鍵”である。 ○進路検定100%の指導はとても評価できる。
		2 学期	①進路決定100%達成に向け、面接指導の徹底、学力アップのための課外や授業等を集中して受けさせる指導に取り組む。 ②来校された企業及び大学・短大・専門学校等の情報は十分活用し、一般企業就職内定率、公務員合格率及び上級学校への合格率の向上をめざす。 ③ハローワーク等の公的機関の情報を入手し、就職希望生徒の指導に活かす。	4	○1、2年生の頃からの進路指導が重要であり、自己の適性を考えた進路選択をさせられるような取り組みが必要である。 ○面接指導不足。学科間で差が見られるようである。 ○本年度が校務支援システム導入初年度であつたため、3年担任の先生方にも非常に御迷惑をおかけしたと思っている		

関係校務分掌	今年度の重点目標	学期	重点目標達成のための各学期の取組	内部評価		外部評価	
				評 定	各学期の反省（課題となるところ）	評 定	説 明
(進路指導部) 続き		3学期	①3年生は、最後の一人まで進路決定を達成させる。 ②1・2年生への進路ガイダンスを通して、進路意識の高揚を図る。特に2年生へは、「進路ガイダンス」・「進学ガイダンス」を企画実施し、働くことの意味をしっかりと理解させるとともに、やりたい仕事と直結した進学校選びを実現させる。 ③本校職員及び高卒就職専門員による後期企業訪問を実施し、次年度につなげるものとした。	4	○進路体験発表の1、2年生の聴く態度が非常に悪かった。集会時の生徒の様子が悪すぎる。 ○面接指導等が十分に行われていない生徒がいた。来ない生徒を待つのではなく、「来させる指導」が大切である。 ○進路指導はすべての教師に必要な技量であるので、例えばガイダンス時などに自ら参加して研修してほしい。		○外部講師は、自分で拓いた道だから目を輝かせて生徒たちに発表でき、生徒たちに感動を与えることができる。生徒たちは自分で自分の道をつかんでほしい。 ○卒業生との意見交換の場がほしい。
農務部	①農業クラブ活動の積極的な推進及び充実に努める。 ②デュアルシステムの計画的な実践を図る。	1学期	①農業クラブ県連大会で上位の成績を狙う。 ②農業科・畜産科においてデュアルシステムの実践的な取り組みを実践する。	3	○農業クラブ県連大会で、意見発表で入賞できなかったのは残念である。 ○デュアルシステムの周知が不足していた。	4. 2	○進路指導に関して、農務の経験が非常に重要である。その意味でデュアルシステムは良い取組である。継続していただきたい。 ○デュアルシステムの更なる向上を期待したい。 ○農業女子の後継者を積極的に押し進めてほしい。 ○産・学・官の強調体が必要である。 ○デュアルシステムは、情熱を持って農業に従事している人と出逢うことで大きなプラスになるとともに、自分の目標を定めるためのよいシステムである。 ○学校創立百周年記念式典・祝賀会が大成功に終わり、感動した。 ○学校創立百周年記念式典での生徒の頑張りや、テキパキ、ハキハキした対応は、気持ちがよくかった。 ○農業クラブの大会の上位成績は素晴らしい。 ○デュアルシステムの実施は大変だと思うが、生徒たちにはよい経験になる。がんばってほしい。
		2学期	・100周年記念行事を成功させる。 ・アグリフェスティバルを成功させる。 ・デュアルシステムのさらなる実践的な取組を行う。	4	○デュアルシステムは、まとめの時期に来ているので、農業科・畜産科での来年度に向けての評価をしていきたい。(12月中に生徒へのアンケート調査を実施する。) ○農業クラブの全国大会での入賞が近年なかなか達成出来ていない。指導方法の改善を検討していく必要がある。		
		3学期	1. 3学期は校内行事の意見発表・プロジェクト発表大会が実施されるので、それに向けて各学科での準備をお願いしたい。 2. 年度のしめくりの学期になるので、次年度へ向けての準備に取り組んでいきたい。(農業クラブ事務局、農研事務局、九農研事務局への準備)	4	○自営者育成協議会総会の実施が、2月になってしまった。 ○デュアルシステムにおける農家や職員の連携・連絡不足があった。		